文教福祉 常任委員会

玉村町の療育・特別支援教育の現状と課題を調査

「にじいろファイル」の活用で、早期発見・早期支援・継続支援を

委員長	宇津木治宣
副委員長	三友美恵子
委員	原　秀夫
	渡辺俊彦
	浅見武志

今回はこのメンバーで、玉村町の療育・特別支援教育の現状と課題を調査しました。

●療育・特別支援教育とは

障害のある児童生徒に対して、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服できるよう、必要な支援を行う教育や保育のことです。

障害（がい）には、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・知的障害・病弱及び身体虚弱者・言語障害など認知されやすい障害と、自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの認知されにくい発達障害があります。

※発達障害とは…脳機能の障害＝育て方の問題ではない

●玉村町の取り組み

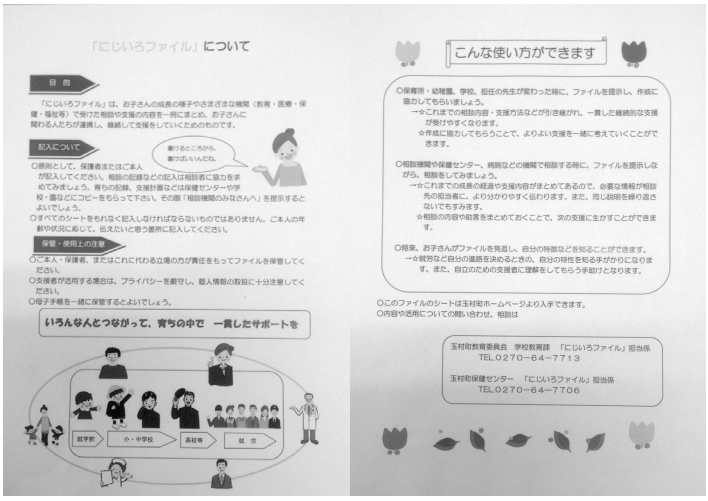
早期発見―早期支援―継続支援を目的に、「にじいろファイル」を活用しています。

「にじいろファイル」は、子どもの成長の様子やさまざまな機関（教育・医療・保健・福祉等）で受けた相談や支援の内容を1冊にまとめ、子どもに関わる人たちが連携し、継続して支援を進めるもので、保護者が管理します。

保健センター（健診）・就学指導（小学校に入るとき）・通級教室（園・学校・保護者の相談）・小学校・中学校などで、希望者に配付しています。

にじいろファイル

玉村町で活用されている「にじいろファイル」。子どもにかかわる人たちが連携し、継続して支援を進めていけるようにつくられています。



まとめ

療育・特別支援教育は、早期発見・早期支援が重要であり、乳幼児期から小・中・高の各段階において連続した支援が必要です。障害を持った子どもたちが社会の一員として暮らしていけるように支援することは非常に大切で、放置すれば社会問題につながるおそれがあります。

当町においても相当数の子どもたちが「にじいろファイル」の支援を受けており、対応する施設やスタッフの充実が課題となっています。当委員会として、周辺市町村が取り組み始めている「子ども発達支援センター」などの研究を進め、町に提言していきたいと考えます。